

事業報告書

事業名	三色パステルアートとダンスパフォーマンス ——Unique・Naive・Fantastic——
【計画時の事業目的(取組課題)と実施効果】	
<p>三色パステルアートとコンテンポラリーダンスのワークショップを開催することで、多くの障害を持った方々との交流、地域住民との交流を図る。そうした活動を通して障がい者と健常者の区分けを無化してしまう試みとする。無化した先に見える世界を共有することで障がい者といふレッテルを取り除く取り組みとする。</p> <p>障がいを持っているだけで自らの能力＝パフォーマンスを発表する機会が狭められてしまう。そうしたことがハンディキャップを持った人たちへの偏見を生み出してしまうので、この機会を有効な発表の場とする。</p> <p>発表の場を持つことで、様々な人たちとの出会いを図り、ハンディキャップを持った人たちの能力を知ってもらう事が出来る。</p> <p>パラアートではあるが、「パラ」という垣根を越えた「アート」を目指すパフォーマンスを展開。それにより、多くの人に興味を持ってもらい、より幅広い交流の場を生み出す。</p> <p>このような発表の場を得ることにより、障がい者への理解が広まる。</p> <p>結果、障がいというハンディキャップを持った人たちが住みやすい社会環境につながっていく。</p> <p>これを開催することで地域住民との交流にも取り組みやすくなり、また、ハンディキャップを持った方たちへの理解を深めて頂くことができます。</p> <p>パラムーブメントの一環としてのパフォーマンスの展開で、パラムーブメントの実質的な内容を知ってもらうことが出来ます。</p>	
【実施結果(成果)】	
<p>第一回目 8月17日(月)13:00～15:00 麻生デイケア(麻生区役所内)で10名の参加で開催いたしました。酷暑の中にもかかわらず、三色パステルを楽しみに参加していただいた方々に、初めての取り組みであるイスに座ったままのダンスも参加していただきました。 バレエの手の動きの一つ一つの解説などを参加者の皆様は感心して聞いてくれました。 また、コロナの感染対策もしっかりとやる事が出来たと思います。</p> <p>第二回目 10月31日(土)10:00～15:00 井田障がい者センター「体育館」(川崎市中原区井田 3-16-1)で50名の参加(その他午前午後を通したワークショップに20名)。今回脳性麻痺でありながら、様々な活動＝執筆活動、音楽活動、社会活動をしている杉山健太郎氏との出会いがあり、杉山氏の歌に会わせて、伊藤一のパステル画を即興で描き、古俣志津子が歌に合わせてダンスパフォーマンスを展開するという今年の活動の中でも白眉とでも言うべきものを開催しました。杉山氏と伊藤一のコラボは多いに参加者の皆さんに感銘を与えました。</p> <div data-bbox="1209 1279 1430 1532"></div> <div data-bbox="951 1760 1129 2020"></div> <div data-bbox="1145 1733 1410 2020"></div>	

第三回目 11月6日(金)13:30～15:30

井田地域生活支援センターはるかぜ(川崎市中原区井田 3-16-1)にて「フワッと心が温くなる作品を描こう」と題したワークショップを10名の参加で開催いたしました。

様々な障がいを持った方たちに日頃のストレスからの解放をめざして取り組んでいただきました。障がいを持った当事者でもあるインストラクターが、パラメータの活動を通しての社会参加、社会的自立をはたしているということが参加した方々にもハッキリと実感していただいたようです。作品の完成度、達成感を十分に味わった参加者の皆さんは驚きの声を挙げていました。参加者した皆様の要望で、この後、三色パステルのプログラムが毎月定期的で開催されるようになったことは特筆されるべきものです。



第四回目 令和3年2月18日(木)13:30～15:00

川崎市男女共同参画センター(すくらむ 21)(川崎市高津区溝口 2-20-1)の「東日本大震災の被災者のためのホットサロン」にて、三色パステルとダンスパフォーマンスのワークショップを8名の参加で開催させていただきました。3年前に一度開催させていただいたのですが、是非とももう一度やってほしいとの要望を受けてのものでした。参加後の感想等を添付しましたが、古俣志津子のダンスパフォーマンスも含めて大好評でした。「伊藤さん達の頑張っている姿を見ると、私たちも10年もたつて辛い思いは未だに消えないが、頑張らなければと思います」と話していただき、大感激でした。



第五回目 令和3年2月26日(金)14:00～15:30

生活介護事業所 studio FLAT(川崎市幸区北加瀬1丁目 コトニアガーデン北棟 3F) にて8名の参加。studio FLATの皆さんはそれぞれが作家活動をしている方々なので、伊藤インストラクターも緊張して望んだのですが、始めてみると、皆さんがそれぞれの個性を発揮して独自のものを作成していただきました。インストラクターの話術の巧みさもあり、参加者の皆さんも飽きずにパステルアートに取り組んでくれました。それぞれの色彩感をしっかりと持っている方達なので、素晴らしい作品が完成いたしました。



今回は、広報活動には苦勞いたしました。10月30日までの広報は、チラシ・ポスターの配布等を川崎市精神障害者地域生活推進連合会加盟の事業所を中心に展開して参りました。その結果、10月30日には、午前午後を通じ多くの参加者を得ました。特にこれまでは、精神障がい者の団体等が中心ではあったのですが、近隣住民、知的障がいの人たちの参加もあったのは嬉しいことでした。10月以降はコロナ禍と言うこともあり、それ以降のワークショップが中止となり、口コミでの開催依頼が中心となってしまいました。

【実際の効果と課題】

① 今回の事業での最大の目標である「多くの障がいを持った方々との交流、地域住民との交流を図る。そうした活動を通して障がい者と健常者の区別を無化してしまう試みとする。無化した先に見える世界を共有することで障がい者といふレッテルを取り除く取り組み」を、10月31日に井田障がい者センターで行いました。

何より特筆されるべきは障がいの枠を超えた取り組みがなされたことです。脳性麻痺でありながら、様々な社会

活動＝執筆活動、音楽活動等をしている杉山健太郎氏との出会いがあったことにより、杉山氏の歌、伊藤一の三色パステル、古俣志津子のダンスパフォーマンスというコラボパフォーマンスを企画いたしました。残念なことに、古俣志津子が体調を崩してしまい、ダンスパフォーマンスは出来なかったのですが、杉山氏と伊藤一のコラボは見事に実行できました。歌詞カードを事前に準備出来なかったという欠点がありながら、多くの参加者に障がいを持ちながらも、それに一歩もひるむことなく立ち向かう障がい者の力をみていただくことが出来たと思っております。参加者の方々も、知的障がいの方、精神障がいの方、身体障がいの方と障がいの枠を超えた人たちにあつまっていただきました。勿論、健常の方々の参加も少数ではありましたがありました。コロナ禍の中で開催が思うように出来なかったことがありながら、これは大きな成果になったと自負しております。

② 麻生区役所デイケア、地域生活支援センター「はるかぜ」における開催は、伊藤インストラクターの見事な指導で、障がいを持った方々に大いなる達成感を味わっていただくことが出来ました。「はるかぜ」さんでの開催後、定期的な開催を要請されたことでも評価が高かったことが実証されているのではと思います。

③ 川崎市男女共同参画センター(すくらむ 21)の「東日本大震災の被災者のためのホットサロン」では 3 年前に開催したのですが、是非とももう一度開催してほしいとの要望を受けました。大震災での避難生活の中でも、ほっと一息つける時間が過ごせるのでという言葉いただきました。そして、「障がいを持つ方達がこういう活動が出来ると、自分たちの励みになります」という言葉も併せて頂きました。アンケートでもそれが窺い知ることが出来ます。

④ 生活介護事業所 studio FLAT での開催も難しいものがありましたが、参加された皆様にそれなりの達成感を感じてもらえたのではともっております。4 名ずつ、二交代での開催でしたが、幅広い交流が出来たと思っております。

⑤ 障がいを持った方たちも、そうでない人たちも共に手を携えて生きていける社会を目指したパラムーブメントの一環として、多くの参加者に、障がいを持った当事者のインストラクターの活躍が受け入れられていることが実感されました。今後は、更なる参加者の枠を広げていくことに努めたいと思っております。今年度、コロナ禍ということで、保育園での開催が決まっていたものが二カ所中止されてしまったことは、その意味でも残念な結果でした。今後、それを課題としていかなければならないとも思っております。

⑥ 当初企画しておりました作品展示の機会は、コロナ禍で開催が難しくなり、弊社事業所4カ所での持ち回り開催となりました。杉山健太郎氏とのコラボ時での作品は、多くの人に感銘を与えるものとなりました。